



支部だより No.141

日本山岳会京都・滋賀支部

2020年12月15日

支部長挨拶

松下征文

会員の皆様には With コロナで感染を防ぎ、お元気にお過ごしのことと安堵しています。

自分でこの一年を振り返ってみると、厳しかったなという印象です。経済活動の明日も予断できません。

年初より暖冬による雪不足、新型コロナ、長梅雨と、夏の酷暑に耐えました。しかし新型コロナ感染の脅威はいまだに先行き不透明です。

With コロナで感染を防ぎ After コロナの対応と山行を考えていかねばならないでしょう。

支部でも予定された多くの会議や計画は、中止や変更等を余儀なくされました。

支部では友の会に若い方の入会が増えてきました。個人山行も活発に行われています。先輩会員として少しでも安全に楽しめるように技術指導と支援が重要になってきました。友の会の皆様には本会員となっていただくよう願っています。

登山の多様化と共に登山者も多様化してきました。三密を避けるせいか単独登山者が増加しています。予約のいらない立山雷鳥沢や穂高涸沢キャンプ場は、グループ登山でもテントは一人一張りの一人用テントです。数年前からの現象ですが、ますますそうなっていくでしょう。今夏は1000張りぐらいのテント村となったようです。驚くべき山密です。

日本山岳会120周年記念事業の一つに全国山岳古道調査があります。「日本の山岳古道120選」として各支部で調査を行うこととなりました。この企画には会員全員が参加出来ると考えています。資料調査から現地登山ルート調査、記録の作成等に支部全体で取り組んでいきたいと考えています。

新型コロナは全世界、全都道府県に蔓延しています。どこでクラスターが発生するか予測できません。

With コロナで三密と山密を避けた山登りを考えていきましょう。

支部から感染者が出ないことを祈り、会員の皆様と

良き新年を迎えたいと願っています。

巨木探訪シリーズ

福井県今庄周辺

(自然保護部会7月例会)

岡田茂久

2020年4月、新型コロナウイルス感染拡大緊急事態宣言の後、5月25日に全面解除とはなったが、その後もコロナ感染状況は今ひとつすっきりせず、気が咎めながらの6月例会に次ぎ巨木探訪シリーズの再開2回目となった。

今回から目的地は府県境を越えないという制約から外れ、福井県今庄周辺の巨木探訪である。7月29日、四条大宮を8:30出発、天候は晴れで最高気温は38度になるかもという予報で心配したが、案に相違してコロナ対策で車窓を開けての走行も快適であった。

大原からR367を経由し今津からR161に合流、毎度ながら「追坂（おっさか）峠道の駅」で休憩。敦賀IC（10:50）から高速道路で今庄IC（11:10）到着。日野川に沿ってR365を下り、南条SA近く堂宮集落の「鵜甘（ウカン）神社」に周囲5.7m（今回実測）の大杉を訪ねる。

村の小さな神社に見えるが飛鳥時代の白鳳2年（651年）に、滋賀県坂本の日吉神社から勧請された式内社（毎年朝廷から重要視され奉幣を受ける神社）で、正式名は「杣山（トマヤマ）式内総社鵜甘宮」。祭神は鵜草葺不合尊（ウガヤフキアエズノミコト）、神武天皇の父親で「ユダヤの古代王朝」とも関連があるといい、南北朝時代の武将新田義貞が先勝祈願に度々参詣したという大変由緒ある神社である。

境内入口の石段を登ると、鳥居に粉う異様な太い柱に注連縄が懸っている下を潜る。大杉自体は巨木探訪で見慣れているので、まあまあというところであったが、傍の社務所の庭には驚いた。社務所の門は黒鋳に十六瓣菊の御紋章が打たれ、注連縄が下がる堂々とした長屋門である。柱には「杣山式内総社総合社務所 杣山池泉蓬萊鶴亀園」の表札が掛けられているが、御愛嬌は門正面に

大きな信楽焼の狸が立ちはだかっていた。入るのは憚られたが、何のこと長屋門の横からはフリーで内堀越しにのぞき込むことが出来た。江戸時代の明和四年(1767年)に京の庭師が作成したとのことで、山の裾野の斜面を利用した蓬萊山に鶴と亀が遊ぶという構図であったが、丸く刈られた亀のサツキと鶴に模した松があったそうだが松は枯死してしまったが、今はみみずくの像があちこちに置かれ、なんとも癒される庭であった。

近辺はレンコンの産地であり、道路脇のレンコン畑には蓮の花が咲き残っている。早朝ならさぞ美しいことと思う。近くには温泉施設もある「花はす公園」という設備もあるが、正午過ぎでは蓮の花はしぼんでいるだろうという事で、早々に次の目的地に向かう。

福井県は辛味大根で食べるいわゆる「越前蕎麦」が有名で、途中にも「そば道場」始め何軒かの店があったが、いずれも開いていなく昼食はお預けのままR365, R476を南下、国道と別れ日野川に沿って県道を広野ダム方面に向かう。

この道を通り最初に夜叉ヶ池に登ったのは半世紀前のことであった。まだ広野ダムも建設されて無く、今庄からのバスも広野手前までで、日野川最上流の集落である岩谷の小学校分校校舎で泊めてもらった記憶がある。次に訪問したときは既に岩谷は廃村で集落の橋も落ちており、子供連れで渡渉に苦労した記憶がある。近年になって夜叉ヶ池登山口まで車道が出来ており、苦労して辿った頃を思っ拍子抜けした事を思いだした。

夜叉ヶ池登山口トイレ横の「カツラ」の巨木は、過去いずれの訪問時にも記憶がない。今回、広野の「大カツラ」として探訪してみて「こんな木があったんだ」と改めて驚いた。

次にR365, R476との合流点迄戻り今庄365スキー場をへて栃ノ木峠へ向かう。今庄365スキー場手前の板取集落辺りに「JR北陸トンネル」の工事用斜坑の穴、というのがあったのを思い出したので注意していたが発見できなかった。帰宅して調べてみると工事用斜坑は3本あり、やはり今庄365スキー場の近くの国道沿いと、R476の葉原集落と檜曲集落から少し入る2ヶ所があるという。北陸トンネルは1962年完成の延長13.87kmの長大トンネルであり、工事用斜坑は現在でも緊急時の避難用に整備されているということである。

余呉高原スキー場のある栃ノ木峠の樹齢500年、幹周囲7mという「栃の木」の巨木は残念ながら今はすっかり枯れていた。あちこちに大きなサルノコシカケを派生させ、見るからに哀れな樹形を見せている。それでも大きく張り出した枝はかつての樹勢の見事さを彷彿させるものがあった(12:30)。

滋賀県境の栃ノ木峠から今庄365スキー場手前のR476分岐迄引き返し(12:50)、木の芽峠トンネルを抜け、



夜叉ヶ池登山口の「カツラ」



栃ノ木峠の「大トチの木」

木の芽川に沿って下り敦賀市に入る。次は「瀬河内＝うそこうち」集落に幹周囲10mという「大カツラ」を探したが見つからず(13:30)、R476から少し入る越坂の「タブの木」も探訪予定であったが省略した。瀬河内集落は「JR北陸トンネル」の工事用斜坑に程近い。

敦賀市内に入りR8のICに入る手前で急に思い出し、数分の寄り道で以前に訪問したとのある「ラムサール条約」にも登録している「中池見湿原」を訪ねることを提案した。

「中池見湿原」は敦賀市内から直ぐの広さ25ヘクタールほどの湿地で、ミズノトラノオ、ホトケドジョウ等の約3000種の貴重な動植物が生息しており、深さ40mもある泥炭集積地も存在する我が国でも有数の湿地である。「中池見湿原」はもとは工業団地計画で「大阪ガス」がLNG基地を建設する予定で購入したが、世界的にも貴重な湿原と判明し大阪ガスが敦賀市に全域を寄付し「ラムサール条約湿地」として保全されたものである。「中池見湿原」にはゲートの駐車場から湿原の縁になる小峠を越えるが、小さな自分で運転する斜行エレベーターが設備されているので、年寄りでも足の不自由な人でも訪問できるのである。しかしコロナの関係もあり斜行エレベーター設備は休止中であった。せめて湿地入口のビジターセンターまでとも思ったが、時間的なこともあり残念ながらここもゲートだけで引き返す(14:00)。

後は一目算に疋田からR8号線を深坂峠を越え、滋賀県道286を滋賀県では有数の湿原である「山門水源の森」の前を通過、永原からR303のマキノ追坂峠道

の駅でやっと昼食にありつく（14:30～15:00）。四条大宮には（17:10）の帰着であった。

実施日：2020年7月29日（水）

参加者：仕名野完治、中川 寛、山村孝夫、柏木俊二、
方山宗子、岡田茂久

健幸登山教室 3

明王谷

木村絵美

沢といえば、怖い危ないというイメージで無縁だと思っていたのですが、昨年こちらの教室で初めて沢に足を踏み入れ、イメージはガラリと変わり、今年も参加させていただきました。怖い危ないとは隣り合わせですが、普段の山登りとはまた違う山の景色を見ることができ、独特の雰囲気を楽しむことができます。

坊村に8時30分集合。駐車場で沢登りの基本、廻行図や沢用語の説明、注意点、ロープワーク等を1時間ほど学び出発です。

明王院の橋を渡り入渓。水も冷たく暑い夏の日でも長い間水に浸かると寒いくらいです。体を水に浸けると水の流れや勢いがとてもよくわかります。滑らないように、流されないように、一步一步慎重に足を進めていきます。大きな堰堤の高巻きではロープをセットしていただき、足場の悪い斜面をなんとかトラバースしていききました。各ポイントで講師の方々が待機、アドバイスをいただきながら突破していきます。二ノ滝の高巻きでは泳いでロープの補助をもらいながら岩をよじ登り、二ノ滝の落ち口にもロープをセットしていただき、通過後はしっかりアドバイスもいただき、非常に勉強になりました。

安全な所もロープをセットしていただき、いざという時の対処法など、一日中勉強になる事ばかりでした。ゴールの三ノ滝では突然の雷雨でしたが、今更濡れることに抵抗はありませんでした。こんな時は何に気をつければいいのか等、常に疑問と隣り合わせな1日でした。

今回のような機会をいただきありがとうございました。

集合 坊村 8:30、入溪 10:00、休憩 11:20、脱溪 14:20、
駐車場 15:00、解散 16:10

実施日：2020年8月2日（日）

参加者：村上 正（CL）、松下征文（SL）、
宮永幸男（SL）、土井文雄（SL）、竹下節子（SL）、
松下征悟、
（友の会）尾形利香、野崎貴子、田中紀代美、
木村絵美、
（一般参加者）5名

巨木探訪シリーズ

丹波・氷上郡

（自然保護部会 8月例会）

仕名野完治

今日の巨木探訪の行先は、丹波・氷上郡の青垣地区とのこと、残暑厳しいコロナ騒動の最中ではあったが集まったのは6名。今日も四条大宮集合で山村リーダーの車で出発した。

丹波路の田圃は、稲の穂が黄色く色づき豊作の趣きであり、道路の切取やドテには、外来種の白いタカサゴユリの花があちこちに咲いていた。

第一の目的地は、遠坂の「鹿島神社」の大ケヤキ（幹廻り 5.5m）であったがなかなか見つからず、その近くを歩きつ戻りつ 10:50 にやっと見つけた。

第二の目的は、今出地区の「熊野神社」の大杉とオハツキのイチヨウ（幹廻り 5m）を目指す、又もやその地が分からずウロウロ。山村リーダーと柏木さんの人間ナビでやっと見付けた。

三番目にめざしたのは、稲土地区の（檀家の大カヤ、幹廻り 6.5m 樹齢 300 年）だったがこれも目指した地区に来ているのだから一向に見当たらない。またまた行きつ戻りつ、とにかく地区の人に聞くのが手っ取り早いと人を探すが見当たらない。やっと柏木さんが民家の庭でバアさんを見つけ、聞き質すとすぐそこだ。だがそれが民家に囲まれていて見えない。手分けして探すと民家と民家の間のドテの上の陰にひっそりと佇んでいた。看板には、菅原大カヤ県内第3位と表示してあった。ちなみに「榎」の木は、昔から碁盤や将棋盤の材料として重宝されていたものである。実は、食用や灯火用に使ったため農家の庭先に植えられて来た経緯がある。なるほどと思った。

次に目指したのは「佐治神社」の赤ガシ（幹廻り 5m）というものであった。赤ガシと云う木は地味な木である。

そろそろ昼メシ時だと思った時、着いたところの道の駅「杉原紙の里」の食堂は本日休みでガックリ。道

の向こうの「青玉神社」の大杉を見に行く。神社の左手に巨大な杉（幹廻り 11m とか）が鎮座していた。

13 時 25 分来た道に戻り、やっと「おなぎ葉亭」と云うケッタイナ屋号のミニ食堂を見つけ食事にあっていた。

第六の目的地「高源寺」のコウヤマキを見るべく門前に着くも、皆以前に来たとのことで中に入らず U ターンして戻る事になった。

今回もリーダーの山村さんの事前の調査に乗っかって同行、その苦勞に感謝するのみです。

実施日：2020 年 8 月 26 日（水） 晴

参加者：山村孝夫（L）、柏木俊二、中川 寛、
岡田茂久、方山宗子、仕名野完治



青玉神社の大杉

山歩会例会

歴史の山 小谷山

遠藤将一

新型コロナウイルスによる中止とその後の例会が雨で流れた後の何か月ぶりかの山行とあって、9:30 に JR と 2 台の車で河毛駅に集合した皆さんのお顔は久しぶりの山登りの期待でイキイキとしていた。駅に隣接したコミュニティハウスのガイドさんから、小谷山を背にした

浅井長政とお市の方の石像の前で、かつての小谷城の説明を受けた。話の中で一番印象深かったのは、浅井側の城のある小谷山と信長が小谷城を攻めるために築いた陣城である虎御前山がともに今のように樹々が生えてなく双方から敵陣の動きが丸見えだったということ、そのような状態で 1 年間対峙した後に信長が総攻撃にかかったということだった。

小谷城戦国歴史資料館の無料駐車場に車を置いて、追手道入口から登り始めた。望笠峠、金吾丸を経て番所跡へ。ここまではシャトルバスの通る舗装路もある。御茶屋（最先端の軍事施設）、御馬屋、首据石、千畳敷の大広間、本丸、中丸を経て京極丸へ。秀吉が暗闇に乗じて、水の手谷から険しい崖を攻め登って上の久政と下の長政を分断して勝利に導いたところ。それぞれに詳しい説明板が立っている。その上の山王丸で昼食（11:30 ～ 12:30）。戦いの後で秀吉は小谷城を徹底的に破壊し、石垣の石を新しく築いた長浜城に転用したといわれるが、山王丸の東側に破壊を免れた高さ 5m の大石垣が残っていた。その後は、清水谷に下る路を左に見て、急坂にかかる階段を頑張って登り、13:00 頃に 494m の小谷山最高峰である大嶽（オオツク）に到着した。1523 年に南近江の六角氏侵攻に備えて初代の亮政が最初に築城したところで、ゆっくり記念撮影をして下山にかかった。

砂利混じりの急坂で滑らないように注意しながらの下降であったが、やがてなだらかな路となり右手に福寿丸や山崎丸を見た。石垣で築かれていた山王丸までの曲輪（砦）とは違って、これらは土塁と堀切だけからなる。先ほどのガイドの人の話ではこの方がはるかに高い築城技術を要したということだった。14:30 に車を停めた資料館着。長浜駅まで車に乗せてもらって解散。

まだ暑いぐらいの晴天で竹生島、沖島の浮かんだ琵琶湖と伊吹山の眺めを心行くまで楽しめた。過去にも今も大河ドラマに出てくる有名な山城であり、最近も“英雄たちの選択”だったと思うが、信長の小谷城攻めについ



大嶽の三角点で（撮影：中川 寛（L））

て詳しく採り上げられていた（御覧になった方もいらっしゃることでしょう）。今までは何気なく眺めていたが、曲輪が階段状に配置された梯郭式山城の構造を強い関心をもって見ることができた。前もって、古谷さんから小谷城全体の説明の YouTube をお知らせいただいたので予習が十分にできていたこともよかった。なお、安全なコースということで私の孫（小2）の参加を特別に認めていただきましたが、「とても楽しかった、また行きたい」と親に話しているそうです、皆様のご親切に心から感謝いたします。

実施日：2020 年 9 月 22 日（火）

参加者：中川 寛（L）、宇都宮道人（SL）、能田直子、
幣内規男、遠藤将一（孫の中野陽花と）
（友の会）川寄紀久子、馬場信枝、古谷英二

巨木探訪シリーズ

米原、長浜方面 （自然保護部会 9 月例会）

中川 寛

今月は、伊吹山の麓米原、長浜方面を探訪する。巨木探訪に加え、伊吹の山容を色々な方面から楽しむことができた。8:30 に四条大宮を出発。京都東 IC から名神高速に乗り、一路米原 IC へと向かった。

最初の巨木は、伊吹山の麓、近江長岡にある長岡神社のケヤキとイチヨウの木。自宅のすぐ側に長岡天神があることから、神社の名前に親近感を覚える。ケヤキは樹齢 300 年以上で、幹周りは実測 6.52m であった。しっかりと根を張り風格のある巨木。イチヨウは、源氏螢生息地として知られる天野川沿いの道路に面して立っており、現地の滋賀県指定自然記念物の説明板によると樹齢 800 年以上とのこと。幹周りは実測 7.25m であった。

次は長浜市今市の八坂神社のケヤキを探訪。この神社名も馴染み深く、期待して訪れたが、ケヤキは見当たらず切り株のみが残っていた。台風で倒れたか？

続いての巨木は、長浜市尊勝寺町の平野神社の杉。またまた馴染みのある神社名である。集落から少し離れて田圃の中にある神社で、御神木らしい杉は見当たらない。社殿横の薄暗い林の中に一本大杉があり、幹周りを実測すると 5.7m であった。岡田さんが地元の人に聞いた話では、林全体が神域になっており、立ち入り禁止になっているとのことであった。

次は、長浜市田川町にある薬師如来堂の杉を訪ねる。

小谷山の峰から南東に延びる尾根の先端に薬師如来を安置する小さなお堂があり、お堂の前の石段側に推定樹齢 300 年以上、幹周り実測 6.1m の大杉があった。見事な根張りで、生命力の強さを感じさせた。

続いて、長浜市高畑町の波久奴（ハクヌ）神社のケヤキを探訪。神社は物部守屋大連を祭っており、古くから地元民に守られてきたようだ。境内参道には鹿の足跡があり、静かな雰囲気の中でケヤキの巨木が複数あった。最大のものは、推定樹齢 300 年以上、幹周り 5.4m。境内に覆屋に覆われた御神木の杉があり、平成 14 年に伐採されたとのこと。

次は、長浜市上野町の素盞烏命神社の大杉。神社参道の両側にヒガンバナが列をなして咲いていた。大杉は拝殿の右手に立っており、幹周りは実測 6.7m あった。推定樹齢 300 年以上とのことだが、樹勢もよく最頂部まで青々と葉をつけていた。神社の名は「スサノオノミコト」と読み、素盞鳴命とも書くらしい。

続いては、長浜市小谷山田町の和泉神社の大杉を訪れる。4 本の大杉があったが、拝殿に向かって右側に立つものが最大で、幹周りは実測 5.9m であった。この神社は、小谷城主浅井氏の信仰が篤かったとのこと、静かな、落ち着いた雰囲気の神社であった。

最後に訪れたのは、長浜市高月町柏原のケヤキで、本日の一番の巨木であった。国道 365 号に面して立っており、推定樹齢 500 年、幹周り 8.9m の巨木である。大地にガッチリと根を張った姿からは強い生命力を感じ



長岡神社のケヤキ



柏原野神のケヤキ

られる。樹の傍らに「野大神（のがみ）」と刻まれた石碑があり、土地（田）を守る神が宿る場所を表しているとのこと。巨木を野大神と呼ぶのはこの地方独特と山村さんから教わった。

この日は、神社の御神木を中心に訪れたため、探しあぐねることもなく多くの巨木を観察することができた。湖北から湖西に廻り、マキノ追坂峠の道の駅で遅い昼食を取り、一路京都へと帰った。

実施日：2020年9月30日（木）

参加者：山村孝夫（L）、岡田茂久、柏木俊二、
方山宗子、仕名野完治、中川 寛

健幸登山教室 6

堂満岳読図山行

松下征文

イン谷口ー1の沢入口ー堂満岳東稜ー山頂ー金糞峠ー正面谷下降

健幸登山教室4は延期、5は中止としました。日程に問題があったようです。今後の反省点です。

今日は雨の予報ではなかったが、曇天となり堂満岳山

頂はガスの中であった。8:36にイン谷口を出発して正面谷の橋を渡り50m先の所より踏み跡伝いに右に入り尾根の左側を登る。しばらく登ると沢に下りて沢筋を登っていくようになり東稜の登山道に合流する。

このルートは地形図にも山地図にも載っていない。現在地を地形図で確認しながら登る。展望がきかないので地形を読み取ることが大事である。GPSアプリを使えば数メートルの誤差で特定できる。村上リーダーと松下で読図のポイントを教える。

スタート地点からの現在地チェックと道標等の位置で地形図上の位置を確認する事、この時に地形図の地形と現在地の地形を観察するようにする。慣れてくると地形図を見ただけでその場の地形が分かってくるようになり、ルートの概念や地形図により地形の把握で別ルートに踏み込んだ場合もすぐに気付くはずだ。

見通しが良い場合は周辺の山を見て自分の居場所を特定することもでき道迷いを防げるようになる。

12:00に堂満岳山頂に着き昼食休憩をして東レ新道（シャクナゲ尾根）を金糞峠に下り、近年の大雨ごとに荒れて急傾斜となってきた正面谷を慎重に下る。青ガレまでは足元に要注意である。

堂満ルンゼ周辺も近年の大雨ごとに絶えず変化している。浮石での転倒に要注意だ。

イン谷口に下り講習のまとめを村上リーダーが行い本日の講習修了となる。15:00

実施日：2020年10月4日（日）

参加者：村上 正（CL）、松下征文、
（友の会）宅間 仁

未知の山旅シリーズ（第7回）

越後の山

笠谷 茂

2020年4月に計画した第6回（四国／物部川源流の山）がコロナ禍拡大で中止となり、計画立案に苦慮する中、7回目の今回は目標地域を越後・南会津として参加者を募集。あらかじめプランニングメンバーで全体計画を設定し、その後参加者でLINEのグループを作り詳細を詰め最終計画を決定した。

全行程天候にも恵まれ、地元の人が大切に作る山々で深まりゆく秋を感じ展望を満喫できた。

今回はワゴン車1台で移動。費用@3.5万円／人（食費除く）。

<予定ルート>

10/17 移動（京都・滋賀⇒三川 IC⇒三川温泉）

10/18 ①御神楽岳（室谷ルートピストン）、CL：須藤、SL：関本

10/19 ②二王子岳（南俣口（二王子神社）からピストン）、CL：笠谷、SL：須藤

10/20 ③松平山・五頭山（魚止の滝⇒松平山⇒五頭山⇒魚止の滝）CL：関本、SL：笠谷

10/21 移動（滝谷森林公園⇒安田 IC⇒滋賀・京都）

<予備ルート>

④組倉山（滝谷森林公園よりピストン）、L：竹下

⑤焼峰山（滝谷森林公園よりピストン）、L：中塚

実際の行動（①、②、③）を紹介する。

10月17日（移動）：京都・滋賀⇒三川 IC⇒三川温泉（新かい荘泊）

8時30分に名神高速道路黒丸PAで集合し山旅スタート。北陸道では新雪を纏った白山、立山・剣連峰を眺め、磐越道に入り三川 IC へ。阿賀町の平等寺境内にある杉の巨木「将軍杉」を見学。三川温泉新かい荘17時着。翌日は好天との予報。幸先の良いスタートをきる。

10月18日（①御神楽岳）：新かい荘⇒室谷林道入口⇒登山口⇒御神楽岳⇒登山口⇒室谷林道入口⇒滝谷森林公園（コテージ泊）

室谷ルート登山口への林道（3km）が通行止めとの情報があり、登山口発6時を目標に3時に起床。朝食として宿に準備いただいた弁当を食べ車にて出発（3時55分）。通行止め標識のある常渡川にかかる橋の手前で駐車しヘッドランプをつけ出発（4時55分）、空が白んでいく中林道を進み5時43分登山口着。ヘッドランプを片付け5時53分出発。沢沿いの登山道はぬかるみと石を落ち葉が隠しており注意して進む。日が高くなるにつれ山影が下がりブナの林の斜面の上部から輝きが降りてくる。高度を上げ輝きと交差するころ、後方を振り返ると雲海に日本平山（1081m）がたおやかに浮かぶ。最終水場を過ぎ尾根にとりつくとも視界がどんどん開けていく。大森山への尾根に出ると東側視界が一気に広がり雲海の先に飯豊山塊を望む。展望を楽しみながら尾根を進み蟬ヶ平コースと合流する雨乞峰に着く（9時50分）。湯ノ沢の頭を中心に雪で磨かれたこの山のシンボルとなっている大岩壁を見下ろす絶景に息をのむ。そして気分よく軽快な足取りで御神楽岳頂上に着く（10時05分）。

山頂で昼食そして大展望を楽しむ。二等三角点（点名：御神楽岳、1386.5m）がある山頂には遮るものはないが、まずは北側眼下に見下ろす雪蝕大岩壁が視線を惹きつける。すこし視線を上げると雲海が阿賀野川を隠しその背

後に飯豊山塊が浮かぶ。右には南会津、越後の山々が連なっている。

10時45分、山頂をあとに落ち葉積もる往路を下山する。13時40分登山口着。林道を下り駐車地点に下山（14時35分）。この山旅のベースとなる新発田市にある滝谷森林公園へ向かった。

10月19日（②二王子岳（南俣口（二王子神社）からピストン）：滝谷森林公園⇒二王子神社⇒二王子岳⇒二王子神社⇒滝谷森林公園（コテージ泊）

曇りのち晴れという天気予報のもと、4時起床。朝食を済ませて5時15分車に乗り込み登山口に向かう。公園を出たところで黒い影（体調80～100cmほどの熊）が車の前方を横切る。これもまた山里の現状とを感じる。二王子神社手前の駐車場に車を止め（5時55分）、準備を済ませ神社裏手の登山口を出発する（6時20分）。沢沿いの杉林の中を整備された登山道が続く。やがて尾根へのとりつきとなり勾配がきつくなり頂上から西に延びる主尾根に着く（7時38分）。ここには杉の巨木が林立する中に一王子神社の石祠がある。登山道沿いには避難小屋があり、3合目の標識がある。ブナ林の中に延びる尾根上の整備された登山道を進むごとに木々の色づきも進んでいく。木の切れ間から見える越後平野が小さくなっていく。7合目を過ぎ、草紅葉となった小さなお花畑越しに美しく色づいた頂上が迫ってくる。樹高も低くなり展望が開けていく。三王子神社の石祠、二王子神社奥の院跡を過ぎると稜線で飯豊山塊を起点にパノラマが広がる。錦の絨毯の中の緩やかな道を進むと避難小屋の背後が二等三角点（点名：二王子岳、1420.1m）のある二王子岳山頂である（10時35分着）。この頂上は大舞台のようだ。背後に杵差岳から飯豊本峰、大日岳が屏風のように聳え、そして会津の山々が我もと主張し広がっている。花道のように伸びる尾根には整備された登山道、その先に人々が暮らす越後平野と日本海が広がる。地元の人々がこの山を大切にしていることが染みしてくる。食事のあと記念撮影をし、11時15分出発。眼下の景色を楽しみながら往路を下る。14時33分登山口着。二王子神社に無事下山の感謝の意を告げ、車で滝谷森林公園に戻る。翌日も好天の予報であった。

10月20日（③松平山・五頭山）：滝谷森林公園⇒魚止の滝⇒松平山⇒五頭山⇒魚止の滝⇒滝谷森林公園（コテージ泊）

4時起床。朝食を済ませ車で出発（5時05分）。登山口にある魚止の滝の駐車場着（5時45分）。6時出発。滝の前の橋を渡り右岸を進む。山葵山からの枝尾根にとりつくとも急な登りで高度を稼ぐ。色づき始めたブナ林が朝の光に輝き始める。山葵山の肩までくると笹が多くな



御神楽岳にて（雲海の奥に飯豊山魂）



前一ノ峰より松平山（奥：中央）と五頭本峰（手前：右）

り視界が開け山葵山（693m）に着く（7時35分）。眼下には越後平野が広がり、松平山から五頭山を周回する今回のコース全体が見える。ここから尾根歩きが始まる。晩秋の登山道には落ち葉が積もるが、道の脇は植生が豊かで花の季節に思いを馳せる。8時50分、松平山着。一等三角点（点名：松平山、953.9m）がある。北西には越後平野から日本海が、南東は雲海が広がっている。そして南西に五頭連峰、五頭山の背後に菱ヶ岳を望む。9時07分、五頭山に向かって出発。小ピークを巻きながら右（西側）に深い沢を望むトラバースが続く。五頭山へのほぼ中間の大荒川山（900m）を過ぎると尾根の表情が変わる。西側の急峻さがなくなり視界不良時には尾根を外すリスクが高くなると感じる。なだらかな木立の中の稜線を進み中ノ沢からの登山道と合流し五頭本峰に着く（10時50分）。ここでコースを振り返り2018年5月の親子遭難事故犠牲者に黙とうを捧げる。休憩後11時15分出発。登山道分岐を間違えないように進む。前一ノ峰、一ノ峰から五ノ峰と好展望のピークが続く。登山者も増えてくる。この山も地元の人に大切にされていることを強く感じた。赤安山への分岐からはマイナーコースとなるが、落ち葉を踏みしめながら赤安山登山口へ無事下山した（13時55分）。10分ほど車道を上り返し魚止めの滝駐車場に戻った。

下山後は五頭山麓の出湯温泉共同風呂で汗を流し、新発田市街で買い出しを行い滝谷森林公園に戻る。夜は鍋を囲み懇親を深めた。

10月21日（移動）：滝谷森林公園⇒安田IC⇒滋賀・京都

7時、起床。部屋の片づけを済ませて宿舎を出発し帰途につく。無事滋賀、京都に帰着し山旅を終えた。

同行の皆様、ありがとうございました。笠谷（記）

実施日：2020年10月17日（土）～21日（水）

参加者：笠谷 茂（PL）、関本俊雄（PM）、

須藤邦裕（PM）、竹下節子、（友の会）中塚智子

PL：Planning Leader

（日程管理など山行全体のマネジメント）

PM：Planning Member（PLの補佐）

第5回 テント泊登山の会

川上(かおれ)岳1626m

今中三恵子

テント泊にあこがれ、道具は新旧とりまぜなんとかそろったが、担いで歩く自信はない。テント泊と、翌日は身軽に登る、という計画に参加させてもらいました。

25日9:00 烏丸五条 集合。名神、東海北陸道 飛騨清見経由高山ICへ。国道41号を南下する。まず、道の駅モンデウス位山へ行き、雨の場合のテント場として下見した。スキー場の駐車場で、季節はずれの今は細々と営業していた。テントは張れそう。

予定したテント場へ向かう。川上岳登山口手前ツメタ谷とヌクイ谷が合流するところに林道ゲートがあった。小さな駐車場には何台か車があり、テント3張りには手狭であった。14:30 ヌクイ谷方面に徒歩5分程度行った広場を今夜のテント場とした。小雨が降りだす。しばし車内で待機する。やや激しくなったり小降りになったり。場合によっては、モンデウスでテントとなるか？思ったりした。15:30頃、小雨になってすかさず「今張ろう」と田中Lの判断で、3人行動開始する。

テントは立ったが、雨が続く。小雨のときに張っておいて良かった。テントに入ったり出たりするうち日が暮れた。長い夜だ。4:00 テントから出ると空に星々がきらめく。晴れるな、と思いながらまた寝たらまた降っていた。

6:00 起床 8:00 出発 ツメタ谷林道ゲートを進む。ほどなく林道と別れて大イチイ方面に向かう。大きくロー

ブに囲まれた大木があり、木の階段と観覧台が設えてあった。イチイは岐阜県の本で、一位一刀彫に使われる常緑針葉樹。大イチイ上部から登る。徐々に急坂になり、ほとんど直登となる。振り返ると遠く雪を冠った山々が見える。近い山の斜面は紅葉が美しい。ようやく、出た。位山と川上岳の稜線である。「天空遊歩道」というらしい。なだらかな稜線歩きを楽しむと、川上岳に到着した（一等三角点 川上岳 1625m 点名：兎馬場）。11:10 - 11:50 山頂で簡単な食事をした。

山頂は360°の展望だが、雲がかかったところもあった。御嶽山は緩やかに広がる裾野を見せ、上部は雲で覆われていた。全容を見渡せたなら、さぞ雄大だろう。

山頂を越え、快適な笹の道を歩く。緑のなかに赤や黄色の紅葉が鮮やかである。山之口方面への分岐を通過し、川上岳をとくに見上げながら、13:30 ツメタ谷林道に下る。林道を歩いて、14:30 ゲートに到着した。

自分の家とダイニングがあつという間に出来ました。テント泊は新鮮でとても楽しいものでした。古谷SLがしてくださったように、肉を焼いたり、朝のソーセージで元気をつけたり。私もいろいろしてみたいと思います。バグの打ち方や紐の張り方も教わりました。また、雨の中でテント、というのはいい経験になりました。寝袋が濡れてしまったり、フライがテント本体にひっついてしまったり。学習したこと、改善することが多くありました。

山頂からはまさに大展望。天候で北アルプスがはっきり見えなかったのは残念でしたが、多くの山を眺めまし

た。ありがとうございました。

実施日：2020年10月24日（土）～25日（日）

参加者：田中昌二郎（L）、（友の会）古谷英二（SL）、
今中三恵子

山歩会例会

周山・黒尾山（509.3m）

京都一周トレイル京北コースの里山歩き

古谷英二

連日の晴天、今日もいい登山日和となりました。

集合場所の地下鉄東西線天神川駅バス停に8時30分過ぎに全員が集合し、2台に分乗して出発、道の駅「ウッディー京北」には9:30に到着しました。

支度を整え（実はここでトラブルが発生していましたが後程のお楽しみということで…）、周山城址登山口に着いたのが10時近くです。

さて、ここで周山城址について少しふれておきます。（まったくの受け売りですが…）

京北十景の一つに数えられ、城山として親しまれている山城の遺構は、天正年間（1570年代）丹波平定を命じられた明智光秀が築城したと伝えられています。

案内看板には、このころ（いわゆる安土桃山時代）を“織豊期”と呼んでいます。恥ずかしながら初めて知りました。

9月例会で訪れた、「小谷城の戦」（浅井久政、浅井長政が死去）が天正元年（1572年）で、「本能寺の変」が天正10年（1582年）ですから、まさしく激動の時代だったわけですね。

（なお周山城址の看板にはこの城は1579年築城とありました）

つたない時代考察はこの辺にして、先を急ぎましょう。

周山城址を後にして急登を制覇し、目指す黒尾山（509.3m）には12時前に到着しました。

昼食休憩となるわけですが、ここで問題勃発、ある方（名誉のため名前は伏しておきます）が、「スマホがない!!!」と探し始めました。「よく探せばありますよ、意外なところから出てきたりとか？」と私、しかし、いよいよ見つからない、途中でスマホを取り出していないことは間違いないということで、リーダーが「ウッディー京北」に連絡いただくと確かに預かっているとのこと、やれやれです。しかし、電波が繋がってよかったです。さもなくば、不安を抱えての下山となる所でした。



川上岳山頂にて

その後、集合写真を撮り下山です。激下りもあるので皆で注意して歩きます。

京北周山町の眺望が効くところを過ぎ、綺麗なかやぶき屋根や地酒の酒蔵を後にして、無事「ウッディー京北」に14時過ぎに到着です。

その後スマホは無事回収されました。

戦国に思いをはせる城址や、険しい急登有の楽しい山行となりました。

ありがとうございました。

活動時間：3時間35分（休憩除く）、移動距離：5.8km、
累積標高：（登り／下り）402m／400m

実施日：2020年10月27日（火）

参加者：中川 寛（L）、宇都宮道人（SL）、遠藤将一、
能田直子、西田 均、
（友の会）川崎紀久子、橋本裕子、馬場信枝、
古谷英二



黒尾山頂上にて

巨木探訪シリーズ

越前市

（自然保護部会 10月例会）

能田 成

今回は越前市の巨木を巡る旅である。花折峠から朽木を経て北陸道を走り、目的地、越前市に10時過ぎに着いた。2005年に武生から名前が変わって越前市になったらしい。まずは、畑町の八幡神社の二股の杉を観る。続いて神明神社の周囲6.4Mの櫟。これはなかなか立派だが、神社の由来も立派なものだ。継体天皇の頃からの歴史があり、昭和天皇が第二次大戦の犠牲者を詠んだ和歌の石碑もあった。

この街は1948年の福井地震の被害も少なかったの

か、古い町並みが残っているし、寺院が多いと感じた。その町並みを通って、神明神社の近くにある正覚寺を訪ねた。ここの櫟は落雷で焼けたために、幹の内部が空洞で、背は低くてずんぐりしている。樹そのものは立派だが、全体のバランスが良くないのは惜しい。次に訪れたのは横根町の横根寺（おうごんじ）のトリイ杉である。二本の杉の大木からでた枝が鳥居のように見えなくもない。しかし全く信心深くない者からすると、ゾウの鼻のようにも見えてくる。カメラのファインダーを通して大木を見上げていると、目が廻ってきて、昼間から千鳥足状態である。折よく昼食時間となり、今度は回転ずしが胃の中を廻ることになった。

昼食後は越前市の北にある越前町へ向かう。京都市の隣に京都町があるみたいなもので、妙な違和感があるがやむを得ない。その越前町八田にある螢の宮神社のカツラの大きさを観た。樹齢約600年、樹高30m、幹回りが9.8mで町指定天然記念物である。地上2mのところから8本の幹が伸びていて、これにフジが絡まっている。花の季節に再訪したいものだ。同じく越前町舟場の白山神社の杉を観た後、北へ走り今回の最終ポイントである鯖江市の日吉神社に「相生の大杉」を観た。これは一つの根元から二本の木に分かれているので相生というらしい（境内の説明板による）。別名「めおと杉」とも云われるが、片方が衰弱、枯死したために、平成17年に伐採された、とあった。衰弱死したのは夫婦の何方であるかの説明はなかった。今では片方が頑張っているが、相棒は地上3mの幹を残すのみ。

哀れ めおとの 秋もいぬめり

境内では母親たちに見守られて、幼児たちがかくれんぼをして遊んでいた。

秋の日は暮れるのが早い。高速道から往路と同じく朽木を経て京都へ着いた頃にはすっかり暗くなっていた。

実施日：2020年10月29日（木）

参加者：山村孝夫（L）、岡田茂久、柏木俊二、
方山宗子、能田 成



螢の宮神社 大カツラ

吉野山

伊原哲士

新型コロナウイルス禍である。日本山岳会関連の諸行事も中止が続く中、関西支部主管にて奈良県吉野山で開催された。今回のテーマは「吉野に学ぶ持続可能な自然との共生」である。

一日目。

記念講演は三題。

冒頭は、「吉野林業と山林管理について」という題で中井章太氏（吉野町長・中神木材代表・吉野の山守七代目）の講演。一般に「吉野林業」と言われる地域は吉野川を木材の搬送に使用した場所だ。川上村・東吉野村・黒滝村の三村で構成されている。奈良県の12%を占める。地質は秩父古生層の水成岩。燐酸加里・珪酸塩類に富み土壤が保水と透水性が良好。吉野材は檜と杉が中心だが、軸心が中心に有りたわみにくい最強の木材を産出する。明治維新後に乱獲され危機に瀕したが、明治10年（1877年）に土倉庄三郎が中興。様々な危機があったが、林業をつないでいる。

二題目は、「吉野の桜」。福井良盟氏（竹林院41世院主・吉野山保勝会副理事長・元吉野町長）

冒頭、福井氏は「私は袈裟を着ておりますが、お葬式とかは関係がありません。近年は死んだ方を相手にする坊さんが多ございます。生きています方を相手にする坊さんは少なくなりました」と語る。山伏は雨を降らすのは得意だが、晴れさせるのは苦手。「太閤秀吉の吉野山の花見」は吉野山全山を晴れの中開花させたが「嘘やな」、段階的に開花する山やから、と快活に言う。吉野山保勝会理事長を長く務めて高齢で引退しようと思ったが「駄目」と言われ、現在も吉野山保勝会副理事長として籍を残す。「日本人は何故サクラが好きなのか、考えている内に時が過ぎた。今も答えがでていない」と禅問答のようにして講演を終えた。

三題目は、田中岳良氏（金峯山修験本宗金峯山寺奥駆総奉行・芳山一佛堂住職）で「登拝の心、吉野大峯の山々で御開組に靡く」の講演。冒頭、「山々は修行の道場で、山々は仏身そのもの。山頂は仏の頭なので、山頂は踏むことはない」と語る。森羅万象悉く「神仏の応化身」と考え尊崇するという。修験の意味は、「修」→「苦修練行」、「験」→「験得」で日本古来の自然崇拜という。修験者の装備は、本格的な装備の登山者から見れば「軽装備」です。或る時、奥駆行で歩いていると大学のワンダーフォーゲル部の女子学生に「そんな無謀な格好で山に入って良いのですか」と注意され

たという。「1300年間連綿と、この姿で行をしてきたのに」と苦笑い。最後に修験の開祖役行者の聖句で締めた。「修行は難苦をもって第一とす。身の苦によって心乱れざれば証果自ずから至る。」

その後は、各支部の「自然保護活動報告」。文書・口頭報告も含む。

「北海道支部」。大雪山の盗掘・鹿の食害、セイヨウマルハナバチ増加有無の報告。

「青森支部」。白神山地ブナ再生事業活動経過報告。

「群馬支部」。湯ノ丸高原でのミヤマモンシロチョウに会う取り組みの報告。

「静岡支部」。リニア新幹線に於ける大井川と流域への環境破壊についての報告。

「京都・滋賀支部」。巨木探訪の取り組み報告。微生物も含めた生物多様性を守る提言。

「関西支部」。本山寺山森づくり、東おたふく山の保全活動について。

「広島支部」。霧が谷湿原再生地の整備・保全活動の取り組みについて。

「四国支部」。剣山系における森林生態系保全活動の取り組みについて。

二日目。

二つのコースに分かれフィールドスタディをおこなった。Aコースは（奥千本－上千本）で宿舎太鼓判花夢花夢－奥千本口－金峯神社－大峯奥駆道－旧女人結界の碑－青根ヶ峰－奥千本－苔清水－西行庵－高城山－上千本－吉野水分神社－三郎鐘－太鼓判。Bコースは（中千本－上千本）で宿舎太鼓判花夢花夢－竹林寺－桜本坊－喜蔵院－振袖山－勝手神社－中千本－如意輪寺－後醍醐天皇陵－吉水神社－韋駄天山－金峯山寺蔵王堂－吉野朝宮跡－仁王門－銅の鳥居－黒門－下千本－七曲り－吉野駅。

京都滋賀組の2名はAコースの（奥千本－上千本）に参加した。宿舎太鼓判花夢花夢から奥千本口へバスで移動。鎌倉の源頼朝に追われた源義経が隠れたとされる義経堂を経て金峯神社。大峯奥駆道の入り口となる石畳の道に入る。一日目は山上ヶ岳まで行くという。

大峯奥駆道は役行者が8世紀頃に開いたとされる。吉野と熊野を結ぶ修験の道だ。約八日間で縦走する。吉野から熊野へは逆峯、熊野から吉野へは順峯という。

旧女人結界の碑を経て青根ヶ峰へ行く。現在、女人結界は山上ヶ岳まで後退した。青根ヶ峰は吉野山山系の最高峯。三角点がある。展望は樹林の中で悪い。

奥千本から苔清水、西行庵は閑静な山路。往年の吉野が想起される。高城山は展望が良く、ここで昼食休憩。宿舎太鼓判特製の竹の皮で包み込んだ弁当が美味しい。

高城山からはコンクリートの道。高城山－上千本－吉野水分神社－三郎鐘－太鼓判と下った。14時に解散。

帰路、23時の夜行バスまで時間があるという広島支部の3名を奈良まで車で送った。奈良国立博物館での正倉院展が目的だったが、新型コロナウイルスの蔓延禍で完全予約制となっており入場出来なかったとのこと。後日、お礼の電話の折に知った。東大寺などを見学し無事、広島へ帰着した。

日本山岳会は全国的な「自然保護団体」でもあると改めて認識した自然保護全国集会であった。

実施日：2020年10月24日（土）～25（日）

参加者：幣内規男、伊原哲士

全体40名（日本山岳会本部・日本山岳会自然保護委員会・群馬支部・神奈川支部・静岡支部・広島支部・四国支部・関西支部・高尾の森づくりの会）

行 事 案 内

- ◇ 山行への参加申込は、例会名、会員番号、氏名、年齢、電話番号等、緊急連絡先および山岳保険の加入・種類など必要事項を記入の上、郵送または FAX で。
- ◇ 「★マイカー分乗」の山行は参加者の自家用車利用を予定しています。ご協力をお願いします。
- ◇ 思わぬところで遭難事故が発生します。車両保険と同様、また、ご家族のためにも山岳保険の加入は登山者の常識です。会員各位のご理解をお願いいたします。

2021 年 1 月に予定された「日本山岳会京都・滋賀支部新年会」は中止します。

支部の新年会を開催予定しておりますが新型コロナウイルス及びインフルエンザ蔓延の動向を考え、支部役員会で協議の結果、中止することになりました。会員・準会員・会友・友の会の皆様も健康に留意されて良い年をお迎えください。

(問い合わせ)
支部事務局
伊原哲士

平日例会山行

クノスケ586m

目的の山域・山名：南山城村にあり、山城谷川の北に位置する 586m のクノスケまたは、九ノスケ（二等三角点（点名 野殿村）

日 時：2021 年 1 月 21 日（木）

集 合：参加者に連絡

行 程：JR 関西本線大河原駅→（山城谷川）→六番→559→クノスケ→弁天池→東海自然歩道→大河原駅

地 形 図：1/25000 図「笠置山」

山行の目安：体力 3、技術 3（体力・技術力は各担当の私感）

担 当 者：田中昌二郎

申 込：1 月 13 日（水）までに所定事項記入の葉書、FAX またはメールにて担当者まで

岩門沙利山686.4m

目的の山域・山名：比良山系釈迦ヶ岳から北に連なる山塊の岩門沙利山 686.4m（三等三角点 点名 足谷）

日 時：2021 年 3 月 18 日（木）

集 合：参加者に連絡

行 程：JR 湖西線北小松駅→涼峠→寒風峠→滝山→553→岩門沙利山→鳥越峠→岳山→岳観音→音羽→JR 湖西線近江高島駅

地 形 図：1/25000 図「北小松」

山行の目安：体力 3、技術 3（体力・技術力は各担当の私感）

担 当 者：田中昌二郎

申 込：3 月 10 日（水）までに所定事項記入の葉書、FAX またはメールにて担当者まで

山歩会例会

鏡山384.6m

歌人に愛された湖南の里山を歩く

日 時：2021 年 3 月 23 日（火）

集 合：JR 琵琶湖線篠原駅 9 時

行 程：JR 篠原駅→鏡山登山口→あえんぼ広場→鏡山→城山→希望ヶ丘西ゲートバス停⇒JR 篠原駅

山行目安：体力 2、技術 2

地 形 図：1/25000 図「近江八幡」「野洲」

担 当 者：中川 寛

申 込：3 月 16 日（火）までに所定事項記入の上、FAX またはメールで担当者まで。

スキー例会山行

野麦峠スキー場

日 時：2021年2月13日（土）～14日（日）
集 合：嵐電四条大宮 7時30分
担 当 者：山村孝夫
申 込：1月8日（水）までに、担当者まで。

「未知の山旅シリーズ」(第8回)

日 時：2021年4月中旬
目的の山域：九州または四国方面
計画の概要：2020年1月下旬に支部ホームページへ掲載
計画詳細：2月28日時点での申込者の人数、宿泊先の状況等を考慮し策定し、3月31日までに申込者と協議の上決定します。
担 当 者：笠谷 茂
申 込：2021年2月28日（日）までに所定事項記入の上、FAXまたはメールで担当者まで。

会 務 報 告 支部役員会

第415回支部役員会

2020年8月5日（水）18:30～20:00（於）長岡京市中央生涯学習センター
出席：16名 欠席：11名

「報 告」

7月に実施された山岳展望と巨木観察、巨木探訪、健幸登山教室について報告。

支部長・事務局長報告

比良山系への入山者が増加し、事故多発。県警機動隊による遺体収容への協力。会費未納会員の除籍退会について。

「計 画」

8月に実施予定の山行計画について協議・承認。

「そ の 他」

支部ホームページの更新について協議。

老朽化した支部団体装備の取り扱いについて協議。

第416回支部役員会

2020年9月2日（水）19:00～20:15（於）長岡京市中央生涯学習センター
出席：16名 欠席：11名

「報 告」

8月に実施された巨木探訪について報告。

支部長・事務局長報告

健幸登山教室参加者2名が友の会に入会希望。支部だよりにイワイサイクルの新規広告掲載。

比良山系の近況・遭難多発。支部蔵書の整備について。

会計委員報告

2020年度会費未納者・正会員23名、友の会10名。

「計 画」

9月に実施予定の山行計画について協議・承認。

「そ の 他」

支部ホームページを更新する。新規作成に必要な費用は、予備費および海外登山基金で補填。

第417回支部役員会

2020年10月7日（水）18:30～20:00（於）長岡京市中央生涯学習センター
出席：16名 欠席：11名

「報 告」

9月に実施された山歩会・小谷山、巨木探訪、健幸登山教室・堂満岳について報告。

支部長・事務局長報告

9月26日に開催された全国支部合同会議について報告。会員名簿の発行、晩餐会の中止、120周年記念事業（日本の山岳古道の調査）、指導者講習会等について報告された。友の会へ2名の入会が承認。

「計 画」

10月に実施予定の山行計画について協議・承認。

（中川 寛記）

——次号 142 号 予告——

2021年3月15日発行 原稿締切1月31日（日）

原稿送付先 編集担当 福田文夫

＝ あ と が き ＝

皆様お元気でおすごしですか？なかなか終わりの見えないコロナとの戦いですが、日本もロックダウンまでは行かなくて、みんなの努力で何とか日々過ごしてますね。先日は、北海道の山旅に、GO TO のキャンペーンを利用して、三泊四日で行って来ましたが、まだまだ観光にも、登山にも人出は、少なくて閑散としてました。それでも、マスクに、手の除菌にと、どこへ行っても生活は変わりません。さて皆さんも、この機会に本棚に眠ってる、山の本などを再度引っ張りだして、ゆっくりと読んで見るのも、なかなか良いものです。皆様に会えるのを楽しみに。

日本山岳会京都・滋賀支部会報「支部だより141号」

発行所 〒525-0072 草津市笠山3-6-6
 松下征文方
 日本山岳会京都・滋賀支部
 発行者 松 下 征 文
 編集者 幣 内 規 男
 印刷 〒603-8148 京都市北区小山西花池町 1-8
 (株) 土倉事務所
 TEL 075-451-4844 FAX 075-441-0436

京都一周トレイル

Kyoto Trail Guidebook

京都トレイルガイド協会編

今人気の京都一周トレイルの、6つのコースを網羅した初めてのガイドブック。分かりやすい地図と英語対訳付き。体力維持のためにも身近な山を歩いてみませんか。

1,800円



大文字山 トレッキング手帖

フィールドサイエティ(法然院森のセンター)編

ユニークな地質、植物や生きものたち、人の歩みを語る歴史遺産など、5つのコースから大文字山(如意ヶ岳)とその麓の街をめぐるながら楽しむ「歴史都市」京都」の再発見トレッキング。

1,300円



京都を学ぶ

文化資源を発掘する
京都学研究会編 各2,200円

【洛北編】

京都の眠れる「宝」(文化資源)に光を! 北山のヤマユが紡ぐ絹糸、葵が繋ぐ賀茂祭と將軍家など、洛北の自然・歴史・文化を探究する。

【丹波編】

山国・京都丹波を再発見! 平安仏、明智光秀の統治、グンゼと蚕糸業、保津川下りなどなど、山里に刻まれた歴史・文化を掘り起こす。

【南山城編】

京都と奈良を結ぶ回廊地域・南山城。木津川、緑茶、恭仁京、飛鳥仏教、名勝地笠置、流れ橋など、南山城の文化的景観を掘り下げる。

【洛西編】

名勝・嵐山で知られる洛西。桂川、渡月橋、竹林、蚕の社・木島神社、天龍寺をはじめとする庭園文化など、洛西の文化的景観を探究する。



【以下続刊】

ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町 15 <http://www.nakanishiya.co.jp/>
電話 075-723-0111 FAX 075-723-0095 表示は本体価格です。

IWAI CYCLE

【木津屋橋本店】

〒600-8248

京都市下京区大宮通木津屋橋下ル

営業時間: 10:00 ~ 19:00

休日: 無休(年末年始および夏期)

1F/一般車コーナー 075-341-7702

2F/スポーツ車コーナー 075-341-7703

【久世店(オーダーフレーム工場)】

〒601-8205

京都市南区久世殿城町 162

営業時間: 10:30 ~ 18:00

休日: 毎週水曜日・木曜日

TEL: 075-921-8679

I FEEL THE WIND



The Japanese Alpine Club

日本山岳会

会員証

公益社団法人 日本山岳会
〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-4
TEL: 03-3261-4433 <https://www.jac1.or.jp/>



●旧会員証でも構いません●

日本山岳会 会員証のご提示で
店頭価格から御値引いたします!

※特価品・SALE品は対象外です。
詳しくはスタッフまで!

取扱い
ブランド

gan well

ANCHOR

SCOTT

FOCUS

Wilier

corratec

など